



- ウクライナ支援チャリティーコンサート～長崎から平和を～ 開催報告
- 令和5年度 長崎平和推進協会の事業計画・予算
- 大学原爆・平和展
- 平和案内人広島視察研修
- 若者による平和ネットワーク構築プログラム
- 国際青年平和交流事業
- 沖縄研修
- ご遺影は語る
- 海外原爆展
- 市民対象碑めぐり
- あなたの活動を支援します
- 会員の広場
- TOPICS! (「Peaceなねこ」新商品を発売しました ほか)



協会サイト



ウクライナ支援チャリティーコンサート～長崎から平和を～を開催しました(詳細は2ページ)

ウクライナ支援 チャリティーコンサート ～長崎から平和を～ 開催報告



2月9日、長崎原爆資料館ホールにおいて「ウクライナ支援チャリティーコンサート」長崎から平和を〜を開催しました。開始前には、被爆者による「いま世界に届けたい被爆者の言葉」をウクライナ国歌に乗せて上映しました。

調漸^{しんぜん}理事長、田上富久長崎市長の挨拶の後、民族衣装を着用したオクサーナ・ステパニウック氏が国旗とともに登場し、長崎県音楽連盟の堀内伊吹氏のピアノ演奏でウクライナ国歌を独唱しました。また民族楽器バンドウーラを演奏しながら、ウクライナで有名な「もしも刺繍が出来たら」や「うぐいす」などを歌いました。

第二部では、長崎県音楽連盟によりクラシックや日本の歌などが披露されました。交流プログラムとして、連盟メンバーの演奏でステパニウック氏が「長崎の鐘」を歌うと来場者も口ずさみ、「ある晴れた日に」では歌に合わせて日舞を舞うなど、盛りだ

くさんの時間となりました。

会場を訪れた約350人のうち11人は、長崎大学在籍中のウクライナからの避難学生です。会場入口に設置した募金箱に寄せられた、来場者からの善意は全額、ウクライナ避難学生に送られることから、ウクライナハウスジャパンの元駐ウクライナ特命全権大使・天江喜七郎氏より目録が贈呈されました。代表で受け取ったセラフィマ・メリニチュク氏は「ウクライナの苦しみを分かってくれる人が長崎にたくさんいることが分かり、ありがたい気持ちです」とお礼を述べられました。

講演後、ステパニウック氏からは「復興を経験した長崎の人たちが、私の国ウクライナの人たちを応援してくれていると感じることができました」との感想をいただきました。「平和な国を私たちの次の世代に残さないとけない」とのステパニウック氏の思いを、当協会も伝えていきます。

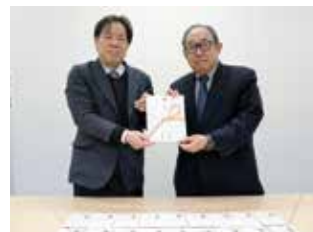


お預かりした募金を長崎大学にお届けしました

2月17日、当協会の調漸理事長が長崎大学を訪問し、9日のコンサートでお預かりした皆様からの善意（総額1,233,475円）をお届けしました。

学生への支援となることを願いながら、在籍する学生18人に宛てた封筒18通を、長崎大学の森口勇理事にお渡ししました。

皆様からのご協力に深く感謝申し上げます。



令和5年度 長崎平和推進協会の事業計画・予算



①平和推進事業費 68,065,000円 (下記1～5の事業費+人件費・事務費43,332,000円)

1 広報事業費 1,797,000円

会報等の発行：会報「へいわ」、情報BOX、平和のあゆみ等を発行し、平和に関する情報を発信する。引き続き、紙媒体からメール配信への移行に取り組む

ウェブ等の活用：多言語化し、内容を一新した協会ウェブサイトや、LINE・Instagram・YouTube等での情報発信、広告媒体での周知活動等に取り組む

2 啓発事業費 2,359,000円

平和学習：修学旅行生等への被爆体験講話の実施、被爆証言映像を含めた平和学習用DVD・写真パネルの貸出の他、外国語ボランティアガイドの派遣や研修などを行う

講演会：平和への認識を深める講演会の他、芸術・音楽・スポーツなど平和の文化と連携した事業に取り組む

国連軍縮週間行事「市民のつどい」：10月24日～30日の国連軍縮週間に合わせ、「市民のつどい」を開催する

3 継承事業費 (長崎市からの委託事業)

13,020,000円

県外原爆・平和展：写真パネルや被災資料の展示、被爆体験講話の実施やビデオ上映を通して、核兵器廃絶と平和に対する意識高揚を図る

語り継ぐ被爆体験：被爆者の被爆体験を語り継ぐ「家族・交流証言」を育成・支援し、次世代の語り部への継承を推進する

青少年ピースボランティア育成：

青少年が原爆や戦争について学び、様々な視点から平和について考え、行動する場を提供することで、被爆体験の継承等に取り組む

青少年ピースフォーラム：

8月8・9日に全国の自治体が派遣する青少年と長崎の青少年が被爆の実相や平和について学習し、交流を深めることで、平和意識の高揚を図る

平和学習発表会及び教材等配布：

長崎市内の中学生が日頃取り組む平和学習の成果等を発表する「平和学習発表会」開催や、副読本「平和ナガサキ」を作成し、市内小中学校へ配布する

4 調査研究費 100,000円

平和・軍縮関係の会議等に役員・職員等を派遣し、情報収集とともに、関係機関との連携・意見交換を図る

5 育成事業費 7,457,000円

部会活動：

会員が市民とともに平和意識の啓発・高揚を図るために、4部会（継承・国際交流・写真資料調査・音楽）の活動を支援する。次世代育成と活動の活発化を検討する

平和案内人育成・派遣：

原爆資料館・追悼平和祈念館・被爆建造物等を案内するボランティアガイド「平和案内人」を育成し、活動を支援する

国際青年平和交流事業：

長崎の若者から平和に関する自由な企画を募集する。認定した企画を支援する

平和事業への支援：

協会の趣旨と合致する音楽祭や講演会、シンポジウムなどの事業・活動を共催・後援することで、平和事業の推進を支援する

秋月グラント：

被爆の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体への助成を行い、事業・活動を支援する

②国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業 303,509,000円

国（厚生労働省）から「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理・事業運営を受託し、被爆の実相・核兵器の脅威などを国内外へ広く伝える。

被爆関連資料・情報の収集・提供、被爆体験記の朗読、国内外の若者の交流促進などに積極的に取り組む。

また開館20周年を記念し、来館者の利便性向上に向けた館内の改修や、企画展等の記念行事を実施する

③収益事業 4,102,000円

原爆や平和に関する書籍やグッズを作成し、ウェブサイトや原爆資料館売店などで販売する。利益の50%は平和推進事業の財源に充当する

④法人会計 5,038,000円

公益法人を適正に運営するために、定期的に理事会、評議員会等を開催する。インボイス制度などの国の制度に対応し、業務の効率化を図る



和について考える、自らも活動してみる

大学原爆・平和展

初開催

2月6～10日、東京都三鷹市の国際基督教大学（ICU）で長崎原爆・平和展「NAGASAKI」を現地開催しました。

会場では、原爆資料館所蔵の被爆資料に加え、被爆後の長崎の写真や体験記などを展示。延べ260人にご来場いただきました。

初日には継承部会員・三瀬清一朗さんの被爆体験講話を実施。学生のみならずICUの岩切学長や吉田RECN Aセンター長、当協会の調理事長など多くの関係者にお越しいただきました。

聴講した学生からは、「三瀬さんの言葉はとても力強く、とてつもなく生々しい。その言葉の一つ一つを追って想像できたものは、考えられようもない地獄と行き場のない恐怖で、心に強く刻まれた」や「今回のような機会をただの説明会のようなものだと考えず、多くの方に実際に参加してほしい。」という声が届きました。

最終日には学生同士のディスカッションイベントを実施。昨年夏に「サービス・ラーニング」プログラムで1ヶ月間、長崎で活動した学生4人が企画しました。長崎で考えた「平和」や「核」のこと、それらを学んだことで深まった疑問や「モヤモヤ」感について報告し、核廃絶や平和教育のあり方について議論しました。



大学原爆・平和展は、長崎市からの受託事業です。

平和案内人 広島視察研修

10年ぶり

2月28日～3月1日、平和案内人広島視察研修を実施しました。広島平和記念資料館の改修工事やコロナ禍などが重なって平成24年度以来10年ぶりとなり、40人が参加しました。

1日目は、ヒロシマ・ピース・ボランティアの方々の説明を受けながら、広島平和記念資料館を見学しました。その後、広島被爆体験証言者の内藤慎吾さんの被爆体験講話を拝聴しました。長崎とは違う展示方法や被害状況、被爆者の話など、真剣な眼差しでメモを取り、話に聞き入っていました。

翌日もヒロシマ・ピース・ボランティアの皆様にご案内いただき、平和記念公園、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などを回りました。日程の最後にはヒロシマ・ピース・ボランティアとの交流会を実施し、資料館案内や碑めぐり時における工夫点やスキルアップの方法、被爆体験継承についての課題とこれからの活動方法などについて話し合いました。初めての交流となる参加者が多く、同じような活動の中でも異なる点が多いことに驚いていました。

今回の研修を通して、広島原爆に関する知識を深めるとともに、ヒロシマ・ピース・ボランティアの皆様とも交流することができ、また平和案内人同士の親睦も深まる有意義な研修となりました。



東京で、長崎で、そして広島で 一平

若者による平和ネットワーク 構築プログラム

3年ぶり

2月18〜19日、3年ぶりに追悼平和祈念館で「若者による平和ネットワーク構築プログラム」を開催しました。マレーシアだけでなく、初めてアメリカ（ハワイ）、沖縄、広島からも招聘し、留学生を含めて9ヶ国、長崎の学生も合わせて30人が参加しました。

ハワイ大学スパーク・M・マツナガ平和紛争解決研究所のブライアン・ハレット所長による基調講演、被爆体験講話、各国での平和学習についての参加者発表などを行い、グループディスカッションなどを通じて、全体テーマの「他者を知り、平和を学ぶ」濃密な時間を過ごしました。ディスカッションでは、話し合う内容によって班を変更するなど、対話を通して交流を深めていました。



Knowing the other sideと題した若者によるシンポジウム。ハワイ大学教授による基調講演や各地域における歴史教育の違いを学ぶ発表、ハワイ大学の講師の先生によるワークショップなど、盛りだくさんの内容でした。

出迎えから見送りまでの4日間、参加者の皆さんと行動を共にし、国籍を超えたフレンドシップを築くことができました。コロナ禍においてオンライン開催が続いていた中、長崎に集い、学びを深め、交流する機会を持つことができたことに心から感謝します。

長崎の大学生として参加した小川由姫さん。
司会進行も務めてくださいました。



国際青年平和交流事業

名称変更

3月4日、国際青年平和交流事業の成果報告会を追悼平和祈念館で開催しました。活水高等学校平和学習部と長崎純心大学（Theopetals）が、9か月間の活動内容について報告しました。

平和学習部は、デジタルツールを用いた平和学習に取り組みました。今の高校生と同じ世代に被爆した方々の被爆証言を英語などに翻訳して世界に発信する中、長崎の地図等と紐づけることで、立体的に被爆の実相を追体験できるようにしています。実際にツールを使いながら県外の高校生と平和学習に取り組んだところ「身近なスマートフォンを使って、被爆体験を読めるのはとても良い」などの感想が寄せられたそうです。

Green Piecesは当初、留学生や長崎在住の外国人などと演奏会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を受け、断念。演奏会ではなく、SNSで合唱動画を発信することとなりました。対面での交流がなくなり、別々に撮影した映像を編集し、完成させました。

会場からは「これからも翻訳を続けてほしい」「活動を続けて、他の大学などにも影響を与えてほしい」などの感想が寄せられました。（この事業は令和5年度にも募集します。詳しくはページをご覧ください）



第12回体験記企画展 ご遺影は語る



2月23日～3月3日、第12回体験記企画展「ご遺影は語る」を追悼平和祈念館で開催しました。「原子爆弾死没者氏名・遺影（写真）登録」は、被爆体験記、証言ビデオと並ぶ祈念館の収集の柱です。今回の企画展では、ご遺影登録されている被爆者の中から6人の被爆状況等をご紹介しました。

また2月24日には関連イベントとして、企画展で紹介した南勇一氏のご子息で、福岡県原爆被害者団体協議会事務局長を務められている南嘉久氏による講演会「記憶することと継承すること」被爆者の遺影登録と私（遺族）の思い」も行いました。

青少年ピースボランティアが学ぶ 沖縄研修



1月7日～9日、青少年ピースボランティア沖縄研修を実施しました。10人のピースボランティアが糸数壕や沖縄陸軍病院南風原壕群20号など戦跡を巡ったほか、上原美智子氏による沖縄戦体験講話の聴講、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館の見学を通して、沖縄戦への知識を深めました。また、米軍普天間基地の返還地に建つ佐喜眞美術館を訪れ、基地問題の現状も学びました。

最終日には沖縄県内の中高生・大学生と交流会を行い、意見交換を通じてお互いの活動や考えを共有しました。（青少年ピースボランティアは長崎市からの受託事業です）

被爆者が当時の状況を語る 市民対象碑めぐり



3月5日、継承部会・原爆遺跡研修班主催の「市民対象碑めぐり」を実施。快晴の下、市民など約50人が銭座地区を歩きました。

最初にもりまちハートセンターで写真資料調査部会長・松田斉氏が、被爆直後と現在の写真とを比較しながら街の変化の様子などを説明しました。その後は三菱兵器製作所工場跡地などを訪れ、写真に写る場所に立ちながら、被爆者らが当時の状況、戦前戦後の生活の様子などを話しました。

参加者からは「碑めぐりに写真で説明があり、とても分かりやすかった」などの感想が寄せられました。

核なき世界の構築 海外原爆展



3月1日、米国ハワイ大学マノア校で、海外原爆展「Building a Nuclear Free World」（同大学スパーク・M・マツナガ平和紛争解決研究所）が開会しました。

この原爆展には、「若者による平和ネットワーク構築プログラム」（5ページ参照）に参加した4人の学生が、同プログラムで学んだことを活かしながら展示に関わったほか、来館した学生や地域の方々に解説を行っています。

3月6日には広島被爆者のご子息が、23日にはマノア校と祈念館をインターネットで結び、継承部会員（被爆者）が、被爆体験をお話ししました。

あなたの活動を支援します

当協会は「核兵器廃絶と世界恒久平和」の実現を目指して活動する個人・団体の活動を支援しています。4月より、若者を対象とする「国際青年平和交流事業」、年齢制限のない「秋月 Grant」の企画募集を開始します。この機会に、やってみたいことに挑戦しませんか？平和に関する企画を、ぜひ、ご応募ください。

●応募詳細は、4月1日より、当協会ウェブサイト「お知らせ」コーナーで紹介します。
詳しくは、右記二次元コードからご覧ください。



秋月 Grant

助成対象 次のいずれかに該当する方

- ①国内外で事業を実施する、長崎県内の個人または団体
- ②長崎県内で事業を実施する、長崎県外の個人または団体

助成対象事業 次のいずれかに該当する事業

- ①被爆・戦争体験を後世に伝えるための活動企画
- ②国内外において、国際的な平和交流を目的とした新規の活動企画
- ③調査研究・資料収集・教育などの幅広い平和啓発のための新たな活動企画
- ④その他、被爆体験の継承や平和意識高揚のための活動企画

募集期間 4月1日(土)～5月31日(水)

助成金額 上限20万円(全体事業費の4分の3の範囲内)

申請方法 所定の申請用紙に必要事項を記入したものを、メールまたは郵送



国際青年平和交流事業

募集対象 長崎県内在住の15～29歳までの個人またはグループ(中学生を除く)
※高校生(または18歳未満)をメンバーに含む場合、責任者が必要です

募集する企画(事業)テーマ

- 「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」
原爆・核兵器・環境・教育などの社会的・国際的な問題について、①・②いずれかに該当するもの
- ①やってみたいと思う活動、または日頃から取り組んでいる内容を更に発展させた活動など、世界の若者等と長崎の若者の交流や相互理解が図られているもの
 - ②原爆や平和、国際交流について学ぶ、または考える機会を取り入れているもの

募集期間 4月1日(土)～5月31日(水)

補助金額 個人：上限10万円 グループ：上限20万円
※市・県・他団体などから助成を受けていないことを条件とします

応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入したものを、メール送信

No. 24



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会
「会員の広場」係

三瀬 清一郎

プロプログラムを通して戦争の愚かさや核兵器の脅威、ロシアによるウクライナ侵攻の悲惨なニュースと重ね合わせながら平和の尊さを説き「平和は人類共通の世界遺産」であると述べ、講話を締め括ることが出来ました。

2月6日、東京都三鷹市の国際基督教大学で「N-WEEK」と題して「長崎原爆・平和展」が開かれ、被爆体験講話者として参加しました。

会場の国際会議室には、被爆写真・パネル・被爆資料などが展示されていきました。被爆体験講話を聴講する学生さんは多国籍のため、前もって私の体験記の英語版を配付。岩切学長も参加され、オンライン配信もされる中、被爆写真のスライドを使って講話をさせて頂いていただきました。最後に質疑応答の時間も設けられ、活発な意見が交わされました。



Peace Wing Nagasaki
会員の広場



TOPICS! へいわトピックス

「Peaceなねこ」新商品を発売しました

長崎の尾曲がり猫をモチーフとした「Peaceなねこ」に、新しくクリアホルダーが加わりました。Tシャツと同じ白地に黒イラスト・黒地に白イラストの2色展開で、両面に同じイラストが印刷されています。

原爆資料館ミュージアムショップで販売する他、当協会ウェブサイトでもオンライン販売も行っています。自分用に、お土産に、ぜひご利用ください。

- Peaceなねこ クリアホルダー 白・黒 1枚330円(税込)
(会員価格297円)



若者朗読サポーター「永遠の会U-25」を募集しています

被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ^{とわ}永遠の会」は、被爆体験記に綴られた被爆の実相、平和への願いを次世代に伝えることを目的に活動しています。現在、この活動をお手伝いくださる15歳(中学卒業以上)から25歳の若者を募集しています。活動をサポートしながら、被爆体験記の朗読を学び、被爆の継承に取り組んでみませんか?

応募方法など詳しくは、右記の二次元コードからご確認ください。



令和5年度 被爆体験伝承者等の派遣受付を開始しました

追悼平和祈念館では、「被爆者」や、被爆者の体験や平和への思いを語り継ぐ「家族・交流証言者」、被爆者が記した被爆体験記や詩を朗読する「朗読ボランティア」を全国(長崎市外)に派遣しています。また、東京都国立市が養成した「原爆体験伝承者」の派遣も開始します。

講話を聴いて、被爆の実相を学んでみませんか?
詳しくは、右記の二次元コードからご確認ください。



世界の核弾頭の数

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2022年6月1日	5,975	5,425	350	290	225	165	160	90	40	12,720

長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 提供 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

寄附者紹介

ありがとうございます

(敬称略)

◎(有)ナカノコーポレーション

一三、五〇〇円

◎上西 和紀

一万円

◎川上 正徳

一万円

◎匿名

三、三〇〇円

皆様から寄せられた香典返しや退職祝いなどのご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として活用させていただきます。

会員数報告

◎維持会員

1,066名

◎賛助会員

172名

◎学生会員

11名

令和5年3月10日現在

賛助会員(団体法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。

ご支援ご協力誠にありがとうございます。会員拡大にも協力をお願いいたします。

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。か、事務局までご連絡ください。